



衝立「銀杏並木」

一針一針に真心をこめ、秋の風情を生き生きと表現している。色彩のバランスと調和、衝立にした発想の面白さなど、氏の豊かな感性が伝わる。★刺繍

齋藤 二良

「雪山と集落」



微妙な白の表情が印象的。土地の風情を生き生きと捉えた情緒ある画。☆新興美術院常任理事☆齋藤二良画集(定価 1万円)を読者1名様にプレゼントご希望の方は齋藤氏の作品への感想とともにご応募下さい。

川田 千草



「花と共に」

モデルの女性と氏は二十数年來の師弟関係にあり、「友情」という言葉では表しきれないほどの、強い絆で結ばれている。並々ならぬ二人の信頼関係が作品を輝かせ、印象的にしているのだろう。★写真

杉琴 寿美子



「紫苑」100×72センチ 40号

「百号にも描きたき思ひ抑えつつ六本の紫苑を描く、薄紫に「老いて後分け入りし雅みやび、芸術たくまの道通かなれども 夢多き道」。六十二歳から本格的に日本画を始めた氏の清雅な作品。☆昭和五年生

佐藤 美代

真言の刻まる鐘や原爆忌  
日もすがら鉢を廻して菊手入れ  
花野きて大師開眼恙なく  
十二月八日卸の位置正す  
岩礁に白き飛沫や神迎  
連風の先のうねりよ奥信濃

中井 美智子

ゆつたりと、穏やかな気持ちで毎日過ごし、心に留まった様々な出来事を俳句にしている。一日一日を大事に、季節を感じながら時を刻む氏の姿勢は現代人に心のゆとりを届けてくれる

菜の花の群れ咲く黄色揺らしゆく  
風の野原を犬と連れ立つ  
若葉風吹きて明るき春の道  
無心に辿り行くべし熊野  
国つ神祭る社の椎の森  
風吹き止みて香りただよふ  
唱名の眼裏に頭ちなつかしく  
激しき母はわれの原点

悠久の時を超え、私たちの中で生き続け、継承されてきた日本の心を感じる。流れるような言葉の旋律で、情緒深い独自の世界を詠っており一首一首に臨場感を感じる。☆昭和七年生